# 大学病院は今

福井大学医学部附属病院長

上田孝典

長かった猛暑の夏が終わり、ようやく本格的な秋となりましたが、皆様には如何お過ごしでしょうか。前号以来の本院の主な動きを御紹介させて頂きます。

3月1日には従来の人工腎臓部より発展的に血液浄化療法部が設立され、診療がスタート致しました。開院以来、本院では院内の患者さん用、或いは緊急時の透析のみを行っておりましたが、新たに9床の透析用ベットを設け、慢性透析患者さんの受け入れも開始しました。大学病院近辺での透析施設の不足を少しでも補うことが出来ればと考えています。また、県より“エイズ治療の中核拠点病院”に指定されました。従来より、県内の新規患者の大部分は本院で診療しておりましたが、HIV感染者の増加傾向に対応するため今後は院内の診療の充実と共に県内での診療協力体制の整備に向け、県との連携を深めつつ力を入れて行きたいと考えています。6月には7対1看護が正式に認可されました。これにより、重症患者さんに対する一層の看護の充実が図れることとなり、また看護加算による安定した収入も期待できます。本院における7対1看護達成の鍵は、新人看護師の増加と共に離職率の減少です。働きやすい職場としての評価が高まったものと思います。これらの看護部の実績を受け、7月1日より橘幸子看護部長をアメニティー担当の副病院長に任命致しました。この面での活躍を期待しています。昨年きびしい医師不足を経験した麻酔科については、今年度は3名の入局者がありその体制は次第に充実し、現在では麻酔医の不在が原因によって緊急手術が出来ない等の事態はなくなりました。手術枠も6室体制より7室体制に拡大し、手術数も順調に増えています。

さて、福井大学では、児嶋眞平初代学長の任期満了による御退職に伴い学長選挙が行われ、医学部病理学出身の福田優学長による新体制が発足致しました。国立大学法人における経営面等での大学病院の重要性を認識頂き、医学部附属病院長は役職指定の副学長として、4月より役員会に陪席として参加し、意見を述べることが出来ることとなりました。附属病院の現況につき法人本部との緊密な意見交換が可能となり、一層の理解を得られたものと考えています。新執行部の御配慮に深謝致します。

最近、来年度研修医の全国マッチングの結果が発表されました。今年は昨年に比べ厳しい状況を覚悟していましたが、昨年の35名に対し更に2名の増加による37名の研修医を確保することが出来ました。しかも昨年に続き2年間大学で研修を希望する者が大多数を占め、本院での研修内容が評価されたものと考えられます。またこの2年間新研修システム以前と同レベルの研修医数が確保出来たことにより、新システム導入に伴う混乱からほぼ回復できたものと喜んでいます。今後は一層の卒後研修の充実により更なる研修医の獲得に努め、地域の医療への還元に努めたいと思っております。

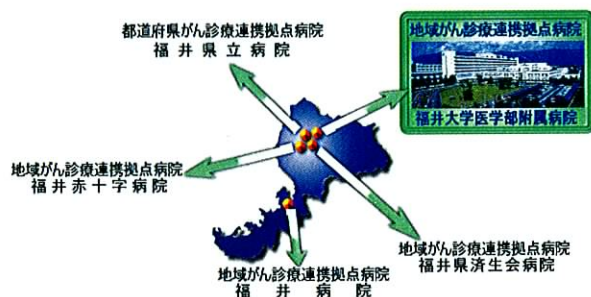
# 地域がん診療連携拠点病院指定について

がん診療推進センター長　片 山 寛 次

わが国では、現在、日本人の死因の第一位(年間30万人)ががんです。2.4人にひとりが一生に一度がんに罹患し、今この瞬間にも160万人の方が治療を受けておられます。そこで、国家を上げてがんを克服しようと様々な施策が講じられています。

2004年、政府は「第三次対がん10カ年総合戦略」を施行。「がんに関する基礎研究やその研究成果を幅広く応用転化する研究等、がん研究を一層推進するとともに、新しいがんの予防対策を推し進め、より質の高いがん医療の「均てん化」等により全国どこでも最適ながん医療が受けられるようにすることで、がんの罹患率と死亡率の激減を目指す」とされています。政府は「1 がん研究の推進」「2 がん予防の推進」「3 がん医療の向上とそれを支える社会環境の整備」を柱に医療政策を進めています。

この「がん医療の向上とそれを支える社会環境の整備」の中で「がん医療の均てん化」のために「がん診療拠点病院の整備」「がん専門医の育成」が掲げられています。

「質の高いがん医療の均てんに資するため、地域におけるがん診療連携を推進するための地域がん診療連携拠点病院を整備する。そこでは、(1) 継続的に全人的な質の高いがん医療を提供する体制を確保する。(2) 地域の医療機関と緊密な連携を図る。(3) 地域におけるがん診療に従事する医師等に対する研修の機会を提供する。(4) 必要ながん医療に関する情報提供を行う。以上により、二次医療圏を基本とする地域全体におけるがん医療水準の向上に資する。」とされています。

平成14年3月以来、福井県立病院、福井県済生会病院、福井日赤病院の3病院が指定され、平成19年1月31日に福井大学医学部附属病院と福井病院が新たに指定されました。

「地域がん診療連携拠点病院」の具体的な役割

- ○地域の医療機関と連携を図り、専門的ながん医療の提供
- ○全国共通がん登録を整備し、がん治療の成績向上に努める。
- ○がん診療に関する情報を公開し、地域がん診療に貢献
- ○がんの緩和医療(がんの痛みに対する専門的医療など)を提供
- ○地域のがん診療に携わる医療従事者に必要な研修を行う。

本学はこの度「がん診療推進センター」を立ち上げました。この活動により、縦割りになりがちな大学のがん診療に関わる様々な問題を整理し、対応して参ります。現在、同センターの業務には以下のものがあります。緩和ケアチーム：大学病院横断的に主治医、精神科医、麻酔医、薬剤師、看護師等、多職種で緩和医療をチームで行っています。通院治療センター：通院での安全な化学療法を支えています。院内がん登録：当院は、地域がん診療連携拠点病院指定を受けたことにより、当院でがんの診断・治療を受けられる方々の様々なデータを記録させていただき、がん医療の向上に役立つ基礎資料を全国共通の様式で国のがん統計に提供させていただくことになります。ご理解とご協力をお願いします。がん治療の標準化部門：安全で効果の確立された治療法を確立します。患者家族に対するがん相談窓口：患者さんやご家族に必要な情報を提供いたします。ネット検索環境も提供しています。専門医療スタッフの教育：大学の使命として、がん専門医等の育成を担います。従来、専門医育成を診療科毎に行って参りましたが、領域横断的ながん診療の専門医制度も始まり、臨床腫瘍専門医や指導医も育てて参ります。地域との連携：地域の医療機関、他の拠点病院、がんセンター等と綿密に

連絡を取り合って、最新の医療情報の提供に努めます。既にこれら各部門が各診療科の協力のもと、活動を始めております。今後の成果をどうぞご期待ください。

## よろず相談窓口(医療相談・がん相談・アスベスト外来相談等)の設置等

福井大学医学部附属病院では、平成１９年４月から、今までの患者相談窓口を"よろず相談窓口"に変更し、医療相談、がん相談、アスベスト外来相談等を行うことといたしました。各専門医師、がん化学療法認定看護師、看護師長、看護学科教員、メディカルソーシャルワーカーが相談に応じています。

これに至る経緯として、本院は平成１９年１月３１日、地域がん診療連携拠点病院の指定を受けました。地域がん診療連携拠点病院の重要な使命の一つとして、「相談支援センター」を置き、本院及び地域の関連施設におけるがん診療に関する情報を公開し、地域住民のがんに関する相談を受けることが義務づけられており、相談内容につき国立がんセンター、県がん診療連携拠点病院など上位の施設と情報交換することとされています。

このため、ネットや図書を駆使してがん診療に関する情報を提供するための「がん相談支援センター」を開設いたしました。同センターには、パソコン２台とプリンター１台を設置しており、患者さんやご家族ががん情報を検索できると共に、がんに関する書籍及び色々なパンフレット類を揃えてあります。

## 医療環境制御センター医療安全管理部 － 昨日、今日、そして明日 －

医療安全管理部副部長　井 隼 彰 夫

平成11年1月11日に横浜市大病院で発生した手術患者の取り違え事故は、日本の医療を大きく揺さぶり、この日を境に国民の病院を見る眼が大きく変わりました。われわれ医療に携わる者にとっても真に晴天霹靂の大事件でした。その後も頻発する医療事故と、国を挙げて医療の安全性を確保しようとする潮流のなかで、この年は医療事故研究元年と言われています。

当院の医療安全管理部は他の大学病院と同様、国の医療安全対策の一環として平成14年に設置されました。医療安全管理の基盤となる医療安全管理マニュアルが作成され、専任ゼネラルリスクマネージャーの下、各部署のリスクマネージャーが集まって、医療にかかわる不都合な事例を報告したインシデントレポートを検討し、単なる個人の責任追求ではなく、その根底に潜んでいる組織の問題点にメスを入れ、再発防止に日々努めてきました。現在の医療安全管理マニュアルは第3版で、日々進歩する安全対策に応える形で改訂され、その内容は豊富で、医療安全管理体制の解説は勿論のこと、想定されるエラー、チェック事項、対策などが事細かく盛り込まれています。厚いマニュアルなんか誰も読まないという陰口も耳にしますが、まさに山登りのためのガイドブックと位置づけており、新任者のみならず担当業務の度に一読すべきものと考えています。

一昨年の夏からオカレンスレポートシステムを導入しました。オカレンスとはリストに示された事項に代表される病院内で発生したすべての報告すべき不都合な事象で、対象は患者だけでなく訪問者や医療従事者も含みます。一方、診療の経過において患者に起こった事象はインシデントとして区別されます。

オカレンスリストによって報告すべき事象がわかりやすくなり、その後の報告数は毎月200件以上に増加しています。

昨年の5月から当院でも電子カルテが稼働しています。医療安全管理部の端末から電子カルテに24時間アクセス出来、医師の記録、バイタルサイン、看護記録、使用薬剤リスト、処置の実施記録などから患者の皆様の病状を比較的容易に把握できるようになりました。院内で安全で質の高い医療が実践されていることを真に確認する一手段として今後積極的に活用していきたいと考えています。

昨年の11月から、オカレンスレポートシステムも電子化され、各部署からの情報発信がさらに早くなりました。毎月200件以上のオカレンスが報告されるなかで、インシデントのワースト3は与薬、手術・治療、ルート管理ですが、高齢者に対するルート管理や転倒・転落の予防など、まだまだ解決すべき大きな課題が残されています。

当院の医療安全管理部は今、大きく成長しています。当初は国から与えられたシステムであり、職員の意識も未だ十分でなく、いわば受け身の体制でした。今は、職員全員の医療安全に対する意識改革も進み、積極的に情報発信がなされています。現在の医療安全管理部の仕事は多岐にわたり、医療安全管理部会、医療安全管理委員会、リスクマネージャー会議などの開催は勿論ですが、各種安全に関する研修会の開催、院内安全パトロールの実施、部署間相互チェック、病院の通知票の実施などの医療安全推進活動を行っています。また、毎年11月の医療安全推進週間には、病院外来ホールにおいて、当院における医療安全対策のポスター展示や実演を行っています。

今後、治療技術の進歩に遅れる事なく、医療安全対策も進歩させる必要があります。誤りは人の常と言われますが、安全はまさに組織の知恵ではないでしょうか。

医療費削減の逆風の中、患者の皆様と医療者とのコラボ（共同行動）こそ、医療上の事故防止の大きな推進力になると考えております。さらなる医療安全の確立のため、皆様のご協力をお願い致します。

平成18年度　医療安全推進川柳　優秀賞（手術部）

「わかってる　つもりの行動　事故招く」

## 看護職副病院長としての役割

副病院長・看護部長　橘　幸子

猛暑の頃も過ぎ、秋の虫が鳴きだしているこのごろですが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。日頃から看護部の運営にご協力いただき感謝申し上げます。

この度、上田病院長より、看護部門の運営のみならず、アメニティ担当として看護部を超えて力を発揮せよとの命を受け、７月１日より副病院長を拝命いたしました。アメニティということの守備範囲は広く、院内の様々なアメニティに目を向けていきたいと考えております。

看護職副病院長として、７：１看護体制の維持による病院経営への参画、さらに、看護部門の柔軟な運営とともに、患者様が納得して、安全で安心な医療を受けることができる環境づくりに尽力していきたいと考えています。そのためには、病院がうまく機能していくための調整役、相談役として職員を信頼し、病院職員が心地よく働けるようサポートする、地域の皆様、患者様のご意見を尊重し、福井大学医学部附属病院が目指す医療に貢献できる職場を形成し育むこと。これらのことが、アメニティ担当副病院長として求められる職務と考えています。今後とも、皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

## 「お子様のお誕生おめでとうございます。」

新生児集中ケア認定看護師　病棟３階・未熟児室　出口　文代

私は、2007年8月に社団法人日本看護協会から新生児集中ケア認定看護師として認定されました。私が、新生児集中ケア認定看護師を目指したきっかけは、自身が実践している新生児看護は、新生児、ご両親に対してより良いケアにつながっているのだろうか、本当にこれでいいのだろうかという疑問を持ち、より高度な知識と技術を身につけ、看護の質を向上したいと思っていました。そのような時に、新生児集中ケア認定看護師教育課程の研修があるということを知りました。2006年9月より社団法人広島県看護協会において7ヶ月間、最新の幅広い知識･技術を学ぶ機会を得ることができました。研修では、知識･技術だけでなく、全国各地から集まった仲間と新生児、ご両親に対する看護について毎日のようにディスカッションをしました。今ではこの仲間が、かけがえのない財産となり、今後の活動を実践する上での力になっています。新生児期は、新生児が母体内生活から母体外生活に劇的な変化をして適応する時期です。この急性期(生後１～２週間)を中心とし、包括的なケアに携わる看護師として活動を行っています。

私たちは、新生児が、出生直後に入院し集中ケアを受けている姿を見ると、「お子様のお誕生おめでとうございます。」という言葉が伝えられないものです。研修においてどんな出産であろうと、この世の中に生まれてきた小さな命を大切に思い、そして家族の始まりに寄り添わせて頂ける感謝の気持ちから、新生児に対して「生まれてきてくれてありがとう。おめでとう。」そしてご両親に対して「お子様のお誕生おめでとうございます。」と伝えることの大切さを学びました。この言葉はとても

簡単ですが、新生児室に入院する新生児やご両親は、中々言ってもらえない一言であり、言ってほしい、祝福してほしい一言なのです。この学びから私たちの病棟に入院される新生児、ご両親に対しては、医療スタッフが必ず祝福の言葉を掛けるようにしています。

新生児は、言葉で自分の欲求や痛み、苦しみを伝えることができません。そのため看護師は、日々の臨床場面のなかで、常に新生児に関心を払い、新生児の変化を見逃さないこと、ご両親の援助のために感性を磨くことなど、日々の看護実践から知識・技術を積み重ねていく努力が必要です。そして新生児が家族の一員と認められるように新生児とご両親に寄り添った看護が行えるよう日々研鑽に努めたいと思います。

## 食べられる喜び

摂食・嚥下障害看護認定看護師　西病棟５階　　酒井　則子

私は、2007年8月に社団法人日本看護協会から摂食・嚥下障害看護認定看護師として認定され、世間でも「食べること」「飲み込むこと」「味わうこと」という行為が注目され、テレビでも放映されるなど、非常に身近な問題になっていることを改めて実感しました。

私がこの道に進んだきっかけは、受け持ち患者さんが悪性腫瘍で化学療法・放射線療法を受け、手術を行った結果、嚥下障害をきたしましたが、残念ながら十分な嚥下障害に対するケアを行うことができなかったという苦い経験があったからです。原因は、私自身に十分な知識が無かったこと、患者自身が医療者で専門的知識を持った人であったため、関わりを躊躇してしまったことです。そのことを悩んでいた時に「摂食・嚥下障害看護ケア」の認定コースが設立されたことを知り、私は今回の振り返りを行ってみたいと思い、受けてみる決意をしました。

半年の研修を終え、看護師ができるケアの多さを知ったとき、今も嚥下障害と向き合って生活をしている患者さんに申し訳ない気持ちと、同時にこれから、多くの患者に積極的なケアを提供できる自信と喜びを感じました。

半面、研修の場では、私がいかに経験不足であるかを実感しました。この分野での主流は神経内科・脳神経外科です。残念ながら私は、神経内科、脳外科の経験がなかったのですが、今年3月、病棟配置で神経内科の病棟に異動となりました。本当に多くの患者が、障害から食べられない問題を日常的に抱えていることを見て、ケアの必要性を痛感しました。

今、私自身が出来ることを、振り返る機会を得ました。それは、身近にいる患者への確実なケア、私と共に、戸惑っているスタッフへの助言などを積極的に行っていくことが役割となると思います。更に、この分野での新しい情報には敏感になり病棟や他病棟にケアを広めていくこともできるのではないかと思っています。

今、NST回診を通して病棟訪問を行っていますが、嚥下障害の患者が多く、ケアを必要としている現状が理解できました。これからは、STと連携を持ち、患者が生活に密着したケアを行っていけるように努力したいと思います。

初心である「一人でも多くの人が、あきらめず食べられる喜びを失わないように」という気持ちは、絶やさず、持ち続けたいと思っています。そのためには、口腔ケアを通して、口輪筋のマッサージを行ったりアイスマッサージで知覚刺激を訓練したり、舌の運動を行い廃用性の予防に努めたり、できる限りの援助を提供し、多くの看護師に賛同してもらえるようにしていきたいと思っています

# 脳脊髄神経外科の診療案内

脳脊髄神経外科講師・医局長　竹内浩明

脳脊髄神経外科では、脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、脊椎脊髄疾患、水頭症、先天奇形など脳神経外科疾患全般に対して診療を行っております。救急患者に対しても脳神経外科の場合は一刻も早く診断および治療が必要な症例が多く、救急部と密に連携してすばやく対応しております。手術に関しては手術室にCTを設置しており、術後のCT検査のためにCT室まで移動する必要が無く、術中の手術の進行状況や術後のチェックなどがその場で可能で安全確実な手術ができます。

## 脳血管障害

開頭手術による治療はもとより、低侵襲的な血管内手術を積極的に行っており、特にくも膜下出血（破裂脳動脈瘤）に対するコイル塞栓術や脳梗塞の超急性期における選択的脳動脈血栓溶解術また血管狭窄における血管拡張術などの最新の治療を行っています。

## 頭部外傷

特に重症の頭部外傷に対しては集中治療室（ICU）において、すばやく病状の変化に対応できるようにモニターリングを駆使し、徹底した全身管理を行い、低体温療法などの集中治療を安全に施行できる体制ができています。

## 脳腫瘍

脳腫瘍手術では上述の手術室CTを利用し、術中にはSEP（体性誘発電位）やMEP（運動誘発電位）などの電気生理学的検査や、蛍光色素を用いて、腫瘍の除去と術後の後遺症の予防に最善を尽くしております。脳腫瘍の場合、放射線療法を行うことが多く、その場合にも最新の放射線療法が可能です。悪性脳腫瘍の場合は放射線療法に加えて化学療法が行われますが、化学療法では腫瘍を栄養する動脈に選択的にカテーテルを留置し、そこから化学療法剤を投与し腫瘍に対してより効果を得られるような方法も行っております。

## 脊椎脊髄疾患

変形性脊椎症、椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症などの疾患に対して、脊髄や神経根への圧迫を改善させるために、手術では顕微鏡を使用し、病変部を確実に捉え、神経の微細な構造を損なうことのないように手術を行っております。また術中CTや電気生理学的検査などを利用してさらに安全確実に手術を施行できるようにしています。

## 当科でできる特記すべき治療として

1）神経内視鏡手術：開頭手術をすること無く、直径１cmくらいの孔を設けて内視鏡下に処置を行うことが可能です。症例は限られますが、水頭症や脳内血腫や脳腫瘍の生検術などに行われます。低侵襲であるために術後の回復も早く、創もほとんど目立ちません。

2）定位脳手術：この方法も直径１cmくらいの孔を設けて、低侵襲的な方法で脳の深部にある病変に対して処置を行います。誤差は１mmくらいで正確に病変部に到達することができます。脳深部の腫瘍の生検および摘出や血腫の吸引除去などをこの方法で行っています。

3）放射線療法：現在は病変部に集中してX線を照射するいわゆる定位放射線療法が行われることが多く、我々の施設では放射線治療室内にCTが設置してあり、それを利用して定位放射線療法が行われます。この方法では頭部固定はピンを頭蓋に刺し固定する従来の侵襲的な方法から非侵襲的なマスク固定による固定で精密な照射が可能です。また、最新の放射線照射システムを日本国内でいち早く取り入れ効果を上げています。治療に関しては脳神経外科だけでなく放射線治療専門医と一緒に治療に当たり、脳への放射線障害をできるだけ抑え効果を最大限発揮できるような方法を検討しています。脳腫瘍および脳動静脈奇形などが治療対象となります。

4）痙性麻痺に対するバクロフェン髄注療法や神経切断術およびパーキンソン病に対する脳深部電気刺激電極埋め込み術なども当科で可能です。

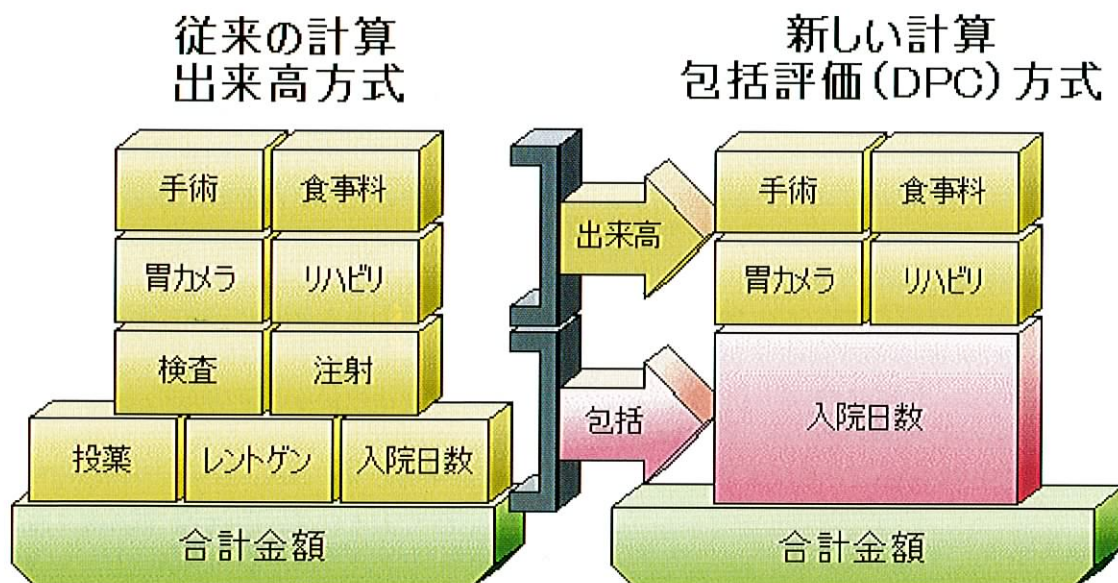
# 病院用語Q＆A

## ＤＰＣとは・・・

ＤＰＣとは「Diagnosis Procedure Combination」の略称で、診断群分類を意味する用語です。診断(Diagnosis)と診療行為(Procedure)を組み合わせ(Combination)、類似したものをグループ化して分類したものを指します。

従来の診療行為ごとに計算する「出来高払い」方式とは異なり、入院患者さんの病名とその症状・治療行為をもとに厚生労働省が定めた１日当たりの金額からなる包括評価部分（投薬、注射、処置、入院料等）と出来高評価部分（手術、麻酔、リハビリ、指導料等）を組み合わせて計算する計算方式です。

ＤＰＣは単に支払方式の改革だけではなく、良質な医療、効率的、効果的な医療、医療の透明化等を図るために実施されたものです。

| 出来高方式（従来） | 包括評価（DPC方式） |
| --- | --- |
| 診療内容（薬の量や検査の回数）ごとに、出来高で計算してそれを積み上げげて合計する方法 | 病名に対し、1日当たりの定額の点数からなる包括評価の範囲（投薬料、注射料、入院料等）と出来高評価の範囲（手術料、麻酔料等）を組み合わせて診療費を計算する方法 |

# 入院医療費計算のQ＆A

**Q1. 全ての入院がこの制度の対象となりますか？**

病名によっては包括金額が定められていないものもあります。その場合は全ての治療項目が出来高計算となります。

また、非常に長期に入院される場合や、特定の治療等を必要とする場合等には、途中から出来高払いになる場合があります。

**Q2. 入院時の病名から途中で病名が変わった場合はどうなりますか？**

入院当初に病名がはっきりしない場合には、疑い病名でまず支払金額を決定します。検査や治療が進むにつれて途中で病名が決定（変わった）した場合は、入院初日にさかのぼって決定病名で医療費の計算をやり直します。

このため、入院の月がまたがった場合などで既に途中までのお支払いをすませているような場合は、前月分の医療費を退院月で最終的に過不足分について調整させていただく場合がありますのでご了承ください。

**Q3. ＤＰＣで医療費は高くなるの？安くなるの？**

従来どおりの計算方式と比べて病名によって高くなる場合もあれば、安くなる場合もあります。

この計算方式では、入院期間（日数）・病名に応じて段階的に１日当たりの医療費が変わる仕組みになっています。

**Q4. 高額療養費の扱いはどうなるの？**

高額療養費制度の取り扱いは、従来どおり変わりありません。

ただし、平成１９年４月からは加入している健康保険にあらかじめ申請し交付される「限度額適用認定証」を病院窓口で提示することで、限度額を超える立替払いの必要がなくなります。

**Q5. 入院中の食事料はどうなるの？**

食事の代金は、従来どおりの金額をご負担していただきます。

# 患者さんの声へのお返事

## 長椅子の設置について

**患者さんの声**

外来駐車場から病棟へ行く廊下が長いのですが、エレベータまでに長椅子を置いてもらいたい。放射線部の受付からエレベータまでも気が遠くなる程、長いですから。

**お返事**

貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

本院では、皆様の声を基に検討し、各種の改善を図っているところです。

この件に関しましては、検討の上、早速放射線部の受付から病棟エレベータまでの廊下中央に長椅子を設置いたしましたので、ご利用ください。

今後も、何かご意見などありましたら、よろしくお願いいたします。

## 道路のひび割れ補修工事について

**患者さんの声**

病院正面玄関向かって右側の身障者用駐車場付近のアスファルト舗装に亀裂（クラック）が生じており転倒する恐れがありますので、補修をお願いします。

**お返事**

貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

ご指摘のありました、正面玄関周辺道路のひび割れ補修工事につきましては完了いたしました。

今後も、お気づきの点などありましたら、お知らせください。

## ベビーカーの取扱説明書について

**患者さんの声**

福井大学病院で借りることのできるベビーカーは、ベルトもリクライニング部分も操作がわかりにくく、使いにくいです。初めて利用する人にも使いやすいものにしていただくと助かります。

**お返事**

貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

現在、本院ではベビーカー5台を病院玄関前に設置し、患者さんへの利用に供しております。この件に関しましては、簡単な取扱説明書を作成し、各ベビーカーに取り付けましたので、ご利用ください。

なお、今後購入する場合については、ご意見を参考に分かりやすく使用しやすいものを購入したいと考えております。

# 血液浄化療法部の施設案内

血液浄化療法部長　吉 田 治 義

今年３月から血液浄化療法部が病院二階の東端にオープンいたしました。広い窓を通して庭木の緑はるかに白山に続く峰々を見渡せることは、長期間通院される患者様にとってはこの上ない安らぎになることと思います。これまでの人工腎臓部を拡充して、本院初の外来通院透析や持続腹膜透析を行うという期待をこめて、血液浄化療法部という新しい名称を戴きました。腎臓の主要な機能は血液の中に貯まった老廃物を尿とともに捨てて血液成分の恒常性を維持することであり、これを一言で表す言葉が血液浄化であります。今後、地域の腎不全患者様の期待に答えることを第一の使命としつつ、全身性あるいは他疾患を合わせ持った透析患者様の治療にも充分に対応することを心がけたいと思っています。

新しい透析室は完全コンピュータ管理システムを採用し、合計９台の血液透析機器をおき、内４台は、骨関節障害などの慢性透析合併症の治療に威力を発揮する血液ろ過透析（HDF）法も可能な装置にいたしました。個室治療室も設け、HDFとともに持続腹膜透析の管理にも対応できるようにいたしました。患者様のアメニティにも配慮し、天井は調光可能な照明を採用し、コンパクトな割には使い勝手の良い患者様や付き添いの方のための控え室も設けてあります。食事や休憩に使うとともに栄養士さんからの食事指導もこの部屋で受けることができます。すぐそばには、大変広くて清潔で使い勝手の良い身障者用のトイレを設けております。スタッフについては、私のほか３名の常勤腎臓内科医師と２名の非常勤腎臓専攻医師が透析医療を担当しております。また、看護師３名と技士１名が専任で勤務しており、それぞれICUとMEセンターからの人的バックアップが得られる体制になっております。来春からのフル稼働を目指して、現在、基幹病院に恥じない専門的技量を身につけたスタッフの育成に力を注いでいるところです。

透析医療は、腎臓内科だけの仕事ではありません。泌尿器科とは、透析に必要な動静脈シャントの形成術をお願いするのみならず、腎臓移植術前後の透析治療及び移植後の免疫抑制療法の継続に当たっては、親密な協力体制を作っております。術後や循環呼吸管理下の腎不全についてはICUとの連携が必須です。小児の腹膜透析や移植への協力体制が望まれることも予想されます。現在、腎臓内科の入院患者数は過剰状態が続いており、病棟にはご無理をお願いすることが多く大変恐縮しております。維持透析を始めると今後、種々の合併症による透析患者様の入院が増えることも考えられますが、関連各科の一層のご協力をお願いできればありがたいと思います。

従来の３台の透析機器の人工腎臓部の時代では、専任の看護師、技士を置くことができず、透析医療のパラメディカルの研修・教育と言う点では、大学病院はブラックボックスのようなものでした。医師にとっても、長期維持透析の管理が院内でできなかったことは、納得のいく腎疾患の専門医療ができていなかった訳で、他の専門分野の先生方との連携の点でも不十分でした。新血液浄化療法部は透析機器の保有台数はわずか９台ですが、専任スタッフで運営されるようになったということは画期的です。これからも増え続けることが推定されている慢性腎臓病の専門教育・研修・研究の場所ができたことにもなり、基幹病院としての大学病院の機能強化に少なからず貢献できるものと思っております。透析医療は、医師、看護師、技士の異なる三職種のスタッフの協力の上で成り立つものです。今回発足した血液浄化療法部がチーム医療の新しい成果として評価されるよう力を合わせて行きたいと思っております。

## 出　来　事　[平成19年3月～平成19年9月]

**3月1日㈬ 医薬品等臨床研究に関する講演会**
時　間　17:30～19:00
場　所　医学部附属病院臨床大講義室
講　師　武田薬品工業株式会社　医薬開発本部
臨床開発部　主席　岩崎幸司　氏
テーマ　治験の現状と治験依頼者が実施医療機関に望むこと

**3月4日㈰ 福井県緩和医療研究会**
**第3回市民公開講座**
時　間　14:00～15:30
場　所　福井新聞社風の森ホール
講　師　聖路加看護大学臨床教授，聖路加看護大学看護実践開発研究センター客員研究員，昭和大学病院非常勤看護師
がん看護専門看護師　梅田　恵　氏
テーマ　がんの痛みはこわくない！！
－がん疼痛との上手な付き合い方－

**3月10日㈯ 福井県臨床研修病院合同説明会**
時　間　13:00～17:00
場　所　医学部附属病院臨床大講義室
内容等　卒後臨床研修に関する福井県内7病院合同説明会

**3月14日㈬～15日㈭ ISO9001：2000**
**第6回継続審査**
審査員　BSIマネジメントシステムジャパン株式会社
松山美奈夫　氏
対　象　管理責任者，総務管理課，看護部，通院治療センター，東病棟4階，東病棟5階（病棟引継），病理部，手術部

**3月16日㈮ 第3回医療環境制御センター研修会**
時　間　17:30～19:00
場　所　医学部附属病院臨床大講義室
内容等　感染制御部関係
①講　師：リンクナース
テーマ：スタンダードプリコーションについて
②講　師：心臓血管外科　講師　森岡浩一
テーマ：手術部位感染（ＳＳＩ）サーベイランスについて
医療安全管理部関係
講　師：がん診療推進センター長
片山寛次
テーマ：中心静脈カテーテル留置時・留置中の重篤なオカレンスとその管理について

**3月24日㈯ 近畿地区臨床研修病院説明会**
時　間　10:00～17:00
場　所　三井アーバンホテル大阪ベイタワー
内容等　卒後臨床研修に関する近畿地区臨床研修病院合同説明会

**3月26日㈪ 福井県の「エイズ治療の中核拠点病院」として選定**
内容等　福井県知事から厚生労働省健康局長通知に基づき選定（健第380号）

**3月27日㈫ 平成18年度医療安全管理部第2回講演会**
時　間　17:30～19:00
場　所　医学部附属病院臨床大講義室
講　師　院内リスクマネージャー
テーマ　福井大学医学部附属病院のオカレンスの傾向とその対策

**4月1日㈰ 治験・先進医療センターの設置**
内容等　従来の治験管理センターを発展・改組し，治験・先進医療センターを設置

**4月2日㈪～6日㈮ 新任臨床医等オリエンテーション**
場　所　講義棟第2中講義室
対　象　新採用初期研修医及び新採用・中途採用の臨床医等

**4月30日㈪ レジナビフェア in KANAZAWA**
時　間　12:00～15:00
場　所　石川県地場産業振興センター
内容等　卒後臨床研修に関する北陸地区臨床研修病院合同説明会

**5月11日㈮ 医学部附属病院長による記者発表**
**-- 地域における医師不足が叫ばれる中での福井大学医学部附属病院の取組みについて --**
時　間　13:00～14:00
場　所　管理棟3階大会議室
内容等　初期研修医の採用状況，救急患者受入れ制限の完全撤廃，麻酔科蘇生科診療体制の整備状況及び手術枠の増加等

**5月28日㈪ 医学部附属病院長と初期研修医との懇談会**
時　間　18:00～21:00
場　所　管理棟3階大会議室
内容等　卒後臨床研修に関する諸問題について意見交換

**5月30日㈬ がん相談支援センター開設式**
時　間　16:30～16:45
場　所　医学部附属病院外来ホール
内容等　がん医療に関する質問や相談に対応するセンターを開設

**6月8日㈮ 卒後臨床研修医募集説明会**

時　間　17:00～20:30
場　所　医学部附属病院臨床大講義室
内容等　福井大学医学部附属病院での初期・後期研修内容紹介

**7月10日㈫ 品質ＩＳＯに関する講演会**

時　間　17:30～19:00
場　所　医学部附属病院臨床大講義室
講　師　医療法人鉄蕉会亀田総合病院 看護部長　原　洋子　氏
テーマ　亀田総合病院の品質ＩＳＯの取り組み
－品質ＩＳＯを踏まえた医療安全，接遇について－

**7月15日㈰ レジナビフェア in 東京**

時　間　10:00～17:00
場　所　東京ビッグサイト
内容等　卒後臨床研修に関する全国臨床研修病院合同説明会

**7月26日㈭ 第２回医療環境制御センター講演会**

時　間　14:00～16:30
場　所　医学部附属病院臨床大講義室
講　師　国立感染症研究所感染症情報センター長 岡部信彦　氏
テーマ　感染症動向に関する最新の話題
－麻疹・インフルエンザの流行と予防－

**7月27日㈮ 平成19年度第4回医療安全管理部実技研修**

時　間　17:30～19:00
場　所　医学部附属病院臨床大講義室
講　師　医療機器メーカー及び環境整備課担当者
テーマ　安全な酸素療法を行うために

**7月31日㈫ 第8回福井大学医学部附属病院運営諮問会議**

時　間　13:30～15:30
場　所　ユアーズホテルフクイ
内容等　福井大学医学部附属病院の管理運営に関する諮問

**7月31日㈫ BSC(バランススコアカード)に関する院内講習会**

時　間　17:30～19:30
場　所　医学部附属病院臨床大講義室
内容等　病院コンサルタントによるＢＳＣ講習会

**8月18日㈯ 福井県臨床研修病院合同説明会**

時　間　13:00～16:00
場　所　福井市AOSSA
内容等　卒後臨床研修に関する福井県内７病院合同説明会

**8月19日㈰ 福井県の地域医療の拡充をめざす医学教育シンポジウム**
**-- 福井の医師は福井で育てる --**

時　間　9:00～16:00
場　所　福井新聞社風の森ホール
テーマ　①地域医療の現場から
②地域に求められる医師とは？
③地域で教えること，地域で学ぶこと
④地域医療を担う人材の育成について

**8月24日㈮ 平成19年度第5回医療安全管理部実技研修**
**-- 安全に人工呼吸器装着患者の管理を行うために --**

時　間　17:30～19:00
場　所　医学部附属病院臨床大講義室
対　象　１年目初期研修医及び新規採用看護師等

**8月26日㈰ 平成19年度福井県総合防災訓練**

時　間　8:30～12:00
場　所　九頭竜川緑地多目的広場(福井市下森田町)
内容等　災害対策基本法及び福井県地域防災計画に基づく福井県全体の総合防災訓練
参加者　救急部医師2名，看護師3名，事務職員1名

**8月30日㈭ がん診療講習会（WEBカンファレンス）**

時　間　18:00～19:30
場　所　臨床研究棟会議室
講　師　ＮＴＴ東日本関東病院 緩和ケア科部長　堀　夏樹　氏
テーマ　がん疼痛に対するオピオイド使用のコツ

**9月5日㈬～6日㈭ ISO9001：2000第7回継続審査**

審査員　BSIマネジメントシステムジャパン株式会社 松山美奈夫　氏
対　象　医学部附属病院長，管理責任者，総合診療部・救急部，眼科，小児科，医療サービス課，放射線部，東病棟７階，リハビリテーション部，医療環境制御センター

**9月29日㈯ 外科手術体験キッズセミナー**
**-- 君も外科医になれる --**

時　間　13:00～17:00
場　所　医学部附属病院手術部
内容等　福井県内の高校１年生（希望者）を対象とした超音波メスによる模擬手術体験，内視鏡手術シミュレーター操作，手術用縫合糸による結紮練習等の体験型プログラム

**福井大学医学部附属病院**
**広報小委員会**
〒910－1193　福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23－3